

田牧一郎の 第10回 カリフォルニア稲作便り

カリフォルニアのカスタムワーク（農作業請負）

『カスタムワーク』には特に定まった定義はありません。「農作業の代行」と表現するのが最適で、他に言いあらわし方がありません。しかしカスタムワーカー達は作業について多くの知識を持ち、作業を行うためのノウハウをそれぞれの部分に蓄積しており、カリフォルニアのコメ産業では欠かすことができない重要な役割を果たしていると言えます。

簡単に「農作業の代行」と言いましたが、単純な「賃耕」のようなものではなく、「産業」としてきちんと競争の中で生き残っているということ、カスタムワークをする作業ノウハウや経営ノウハウを擁して、「農産業」の中でちゃんと役割を担っていることの証しなのです。

今後、日本の稲作も生産コストを追求していくと、必ず規模や分業の問題で大きな経営判断をしなければならなくなるはずです。従来のそこそこの規模の稲作農家が兼業農家の作業を代行する単なる作業請負ではなく、プロ農家のコスト意識からの経営判断によって選択されるカスタムワークが成立するでしょう。

今回はカリフォルニア・コメ産業の中でカスタムワークを取り上げ、現状を紹介していきます。

●飛行機作業会社

飛行機で行うカリフォルニアの種まきほど見ていてスカッとするものではありません。

4月下旬から5月いっぱいにかけて、水をいっぱいに湛えた水田に爆音を響かせ、低空で種をま

いていく様は圧巻です。

通常、20haを1時間ほどで播種作業（播種量15kg/10a）をしてくれます。要は種を播くだけなのですが見えない部分での作業はなかなか大変なものがあります。種子を種子プラントから滑走路まで運び、ベルトコンベアで飛行機のタンクに積み込み、燃料が必要であれば給油トラックが給油を行います。つまり飛行機とパイロット一人がいれば播種作業ができるわけではなく、トラックの運転手兼粉の積み込みオペレーターとその作業助手、田んぼで播種の目印をパイロットに知らせるフラッグマンが2人の合計5人がチームの作業です。（最近では飛行機にGPSが搭載されており、地上のフラッグマンが不要になっているところもあります）

この作業料金が10aあたり2ドル弱です。2回から3回の重ねまきをしていくので播種むらはほとんどなく（別の原因で苗立ちの不均一が

作業	単価 \$/10a	回数	面積 ha	料金 \$
播種	2.00		100	2,000
表層施肥	1.75		100	1,750
除草剤(2回)	1.50	2	100	3,000
追肥(1回)	1.75		100	1,750
合計				8,500

起こることはありますが）作業精度は大変良くできます。

除草剤、肥料の散布についても同様です。料金は散布量の少ない除草剤では10aあたり1・5ドル程度となります。

平均的な作付け面積約100haで、飛行機での作業料金は総額8500ドルになります。（表）

このような料金で精度の高い作業が期待でき、しかも極めて短時間で終わってしまう作業をカスタムワークに頼らずに生産者自身が飛行機を持って作業員を雇って行うとどうなるでしょうか？

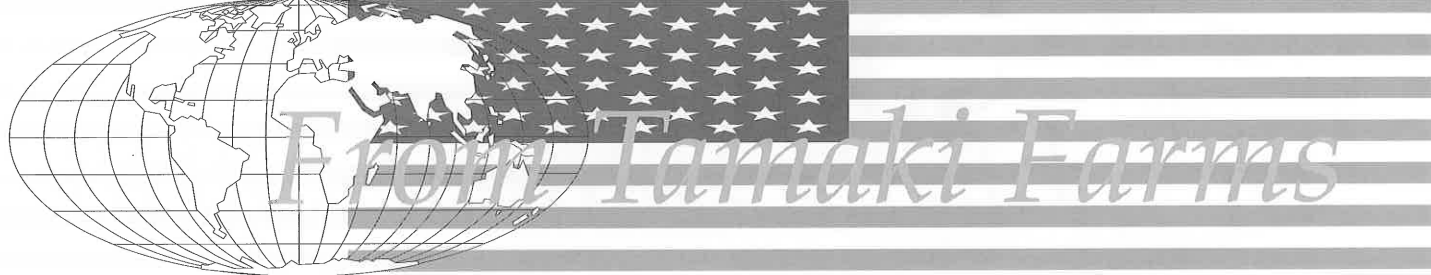
- ・飛行機の維持費、償却費
- ・燃料輸送トラック・作業機材の償却費
- ・農業タンク等農業関連設備の償却費
- ・燃料費
- ・人件費パイロット・地上作業員
- ・その他

このような費用がかかるのですが、人件費のみで委託作業料金を軽くこえてしまうことは、すぐに理解できると思います。

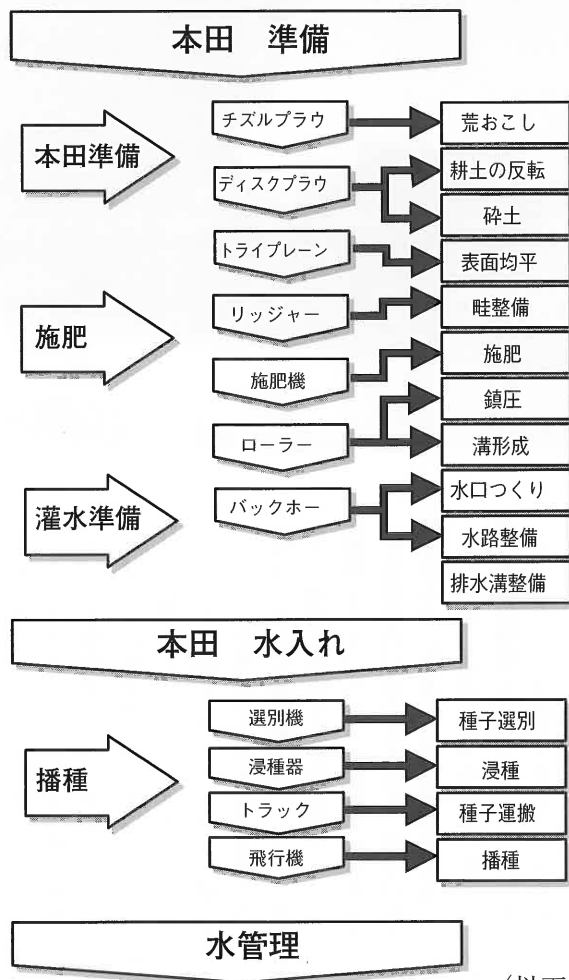
飛行機作業会社はコメの作業はもちろんですが、麦・トマトなどの畑作物や果樹園に対する肥料や農薬の散布作業で事業を行っています。できるだけ多くの時間を飛んで作業をすることが、売



たまき・いちろう／1952年12月郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。自作地の他、地域の作業受託を行なった後、89年渡米。カリフォルニア州で稲作（約80ha）を開始。タマキ・ファームス・ジャパン ☎045-781-6426



カリフォルニア稲作作業工程



(以下次号に続く)

り上げの上昇と利益につながるため、春先は早朝から夕方までフルに飛行機を飛ばします。一部の会社は稲作の作業が一段落する夏から冬にかけては南カリフォルニアで畑や果樹園の作業をするところもあります。

電話帳で見ると私の居るコルサカウンティ内にも15社の飛行機作業会社があり、料金も彼ら同士の競争のなかで決まるので作業会社も上手な経営が求められます。

トラクター作業

カリフォルニアの水田作業は本田の荒起こし作業から始まりますが、粘土質なので乾くと岩のように固くなる土を耕すために、大馬力のトラクターが使われます。

最近では大型化しており、約300馬力トラクターを多く見かけるようになりました。広い水田にぼつんと作業をしているのを見るとそれほどではありませんが、近くで見るとその大きさは「すごい！」ものです。価格も大きく20万ドルをかるく

上回ります。

作業能率は高く、幅4mのディスクを引かせると一日(約10時間)で30haは耕してしまいます。私のところでは一日10時間しか動かなくとも3日ほどと作業終わってしまいます。通常春先の忙しい時期にトラクターが10時間しか動かないのは故障したか、オペレーターの都合がつかなかったかのどちらか特別な場合でしょう。

平均耕作面積が100haのカリフォルニアの稲作でも、このような高効率の高価な機械では過剰投資になってしまいます。

しかし現実にはこのような大型機械を何台も所有している農家があります。その農家は水田の作業のみならず畑作、麦・紅花・綿花・牧草・トマト・メロン等々にトラクターを使用してその稼働時間を長くして時間当たりあるいは面積当たりの償却費を下げています。

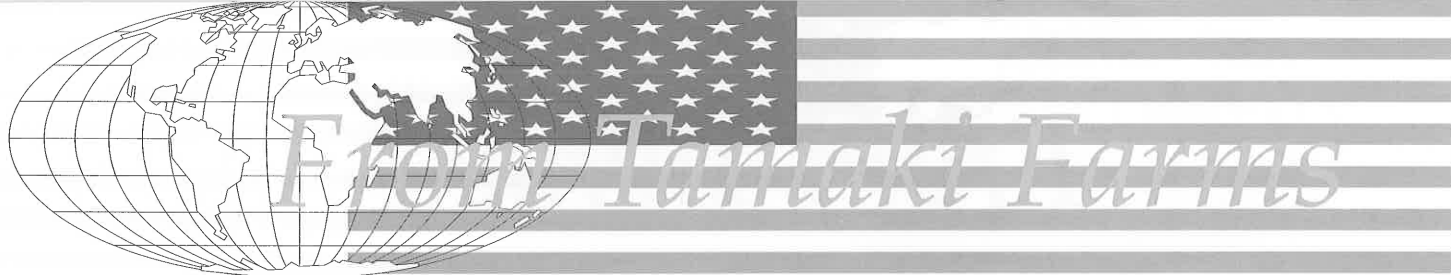
このような農家が近隣の稲作農家の作業を請け負っている事が多くあります。

料金的には、水田のディスク作業は10a当たり2・5ドル。時間当たり75ドルの作業料金になります。

水田に種がまけるようになるまでには、荒起こしから始まって最後のすじ付けローラーを引くまで、少なくとも5回はトラクターが入ります。必ずしも大型トラクターでなければできない作業ばかりでもありませんが基本的にトラクターの能力と作業効率は比例するので、大きい機械で作業すれば短時間で作業が終わります。

100haの水田作業では約12500ドルが作業料金としてかかります。トラクター本体が20万ドルで5種類の作業機(アタッチメント)をそろえるとさらに10万ドルは越えます。いかに耐用年数が長いとはいえ年間の償却費が委託作業料金より高くなってしまうのは確実です。

唯一小規模な稲作農家がトラクターを持つこと



ができるのは、中古で管理作業や特殊な作業に用いる時だけです。

ただし税金対策で大型トラクターを所有する場合もあると聞きますが。

●収穫作業

収穫作業は小屋ほどの大きなコンバインを使用します。北海道で見かける汎用型コンバインと同様のものです。

収穫作業も考え方は同じで、コンバインは最新のもので20万ドルを越えます。コンバインといっしょに作業をするバンクアウトワゴンが必需品で

4万ドル程度です。コンバインとセットで約25万ドルになります。

これを10年で償却すると計算すると年額約2万5千ドル。通常は15年から20年持たせるので実際は1万5千ドル程度になるでしょう。

これで100haの収穫作業にカスタムワークはいくらかかるかと言うと、平均的な収量で約2万ドルと、年間償却費に近い金額でやってもらえるのです。この作業機を自己所有にすれば運転のための諸経費がかかります。燃料代は最近こちらもディーゼル(軽油)、ガソリンなどの値上がりが続いており、燃料代だけでも大きな額になってしまいます。それに修繕費・オペレーター人件費が二人分、圃場を移動する時の大型トラクターによる運搬料金などいろいろと経費がかかります。

作業機を自己所有とすれば、自分の好きな時に好きなように作業ができる利点があることは否定しませんが、普通のコメを普通に作っている限り自己所有は無駄な設備となってしまう。

トラクターと同様カスタムワークをする方は作業面積の大きな農家あるいはコメ以外にも麦や紅花と言ったコンバインが共通して使える作物を栽培している農家です。

年々新型機械は性能も良くなり価格も上昇しているのですが、機械の更新時期にはどうしても新型を入れることになり、従来の面積だけでは作業効率が悪くなった分遊ぶ時間が出てしまいます。短い刈り取り時期に有効に機械と人を働かせるには、より多くの作業をする努力をするのが普通です。当然委託作業を受けて面積をこなす結果になります。

●運搬

稲作農家の運搬作業は何があるでしょうか？まず種籾を飛行機の滑走路まで運ぶこと。肥料は肥料屋さんで飛行場あるいは圃場まで運んでく

れるので特別自分で運ぶと言わない限り運賃は代金に含まれます。農業は運搬や管理の規制が多いので扱いになれている専門の取り扱い店が運搬をします。

農家自身としては、収穫した籾の運搬が最大の運搬物になりますが、作業期間が短いので、籾運搬のためだけにトラックを所有するのも全く無駄になってしまいます。

収穫した籾は田んぼのそばの広場でバンクアウトワゴンからトラック(25t積みのトレーラー)に積み込まれ乾燥所に運ばれます。平均的な農家で100haの水田から収穫される生籾は約千tになり、トラック40台分です。通常一日4〜6台分の収穫をするので約一週間で作業が終わります。

この地域周辺での籾の運賃では、圃場から半径10マイル(約16km)以内だとトン当たり11ドル程度です。たいてい半径10マイル以内に乾燥所があるので25t積みトラック一台で275ドル、40台分で総額1万1千ドルの運賃になります。

どう考えてもこの時期のためのみに大型トレーラーの所有は考えられません。多くの作物を作っていて年間を通して何かを運ぶ物のある農場でないトラックまでの所有はあり得ません。普通、物を運ぶのは運送屋さんです。生籾も近くで運送業をしている会社に依頼するのが中・小規模農家のやり方です。

こうやって見ていくといくら規模が大きいからといって、いや、大きな作業機が必要だからこそ、その作業機を自分で所有して、自分や雇員を使って作業をすることが経営上、得策でないことが見えてきます。

この先、乾燥・保管そして精米作業と収穫後の作業が続きますが、次回に報告をしたいと思います。